

---

# 手を繋いで帰った二人

かなり～

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

手を繋いで帰った二人

### 【Nコード】

N3807A

### 【作者名】

かぁなりゝ

### 【あらすじ】

今日は日直だから、早くとっとと仕事終わらせて帰ろ。っと何気なく過ごした今日の放課後は、これまでもない、とても最高の日だった。

## **(前書き)**

これは、実話なのでドキドキ、楽しみながと、読んでください。

「今日日直だよね」

「めんどー。」

朝、勇気と京子は下駄箱で話していた。

キンコーン―カンコーン

「やっと学校終わったよ。」

勇気はそういつて、日直の仕事をする。今の時刻は7時だ。いつもは5時に終わる学校だったが今日は部活の為終わったのが7時だったのだ。

「恐いよー、恐いよー」

京子はそういつて、勇気の腕をぎゅっと捕まえた

「やめろよ。」

勇気は京子にそういつた

「ごめん。」

二人とも無口になったまま仕事を続ける。

「あー終わった。」

「…。」

「あっ。さっきはごめん」

「いいよ。気にしてないから…。」

「じゃーさ、一緒に帰らない？」

「えっ？」

「いいじゃん。たまには…。だめかな？」

「うん！わかった！」

二人は、手を繋ぎながら、帰っていった。「今日は、ありがとな！」

「えっ？なにの事？」

「だから、俺なんかと一緒に帰ってくれて。」

「いや別に…。」

「ああ、もうすぐでバイバイだな。」

「うん。」

「ねえ。」

「なに？」

「僕と付き合って下さい！」

「えっ。」

「昔からずっと好だったんだ。だから…。」

「いいよ。」

「えっ？」

「だから」

「えっ。マジ？ヤッターあつ、もうここで別々だよな。」

「うん。」

「じゃ、今日はいろいろとありがとう。」

「うん。」

「じゃ、明日な。バイバイ」

「バイバイ。」

そういつて二人は家に帰って言った。（今日は、幸せな一日だったなあ。明日も会えるんだあ。けど、こんな僕でいいのかなあ。まあいつか。いつけねーもう夜の1時じゃん。もう寝るか。）  
そして、僕の夢見たいな最高の一日は終わった。

## （後書き）

どうでしたか？これは、僕のかなりの自信作です。これから日常生活であった事もどんどん書きたいと思いますので、よろしくおねがいします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3807a/>

---

手を繋いで帰った二人

2011年1月16日01時08分発行